河川・水防災技術分野　提出書類の様式

**ＦＳ研究（新規課題）**

**一般研究（移行課題）**

**一般研究****（新規・継続課題）**

＜内容＞

* 別紙河水-I 応募書類申請票
* 様式河水-1 河川・水防災技術分野　応募様式（その１）
* 様式河水-2 河川・水防災技術分野　応募様式（その２）
* 様式河水-3 河川・水防災技術分野　応募様式（その３）
* 様式河水-4 技術研究開発年次計画・経費の見込み
* 様式河水-5 研究年度（平成〇年度）の必要経費概算
* 様式河水-6 研究者データ
* 様式河水-7 研究概要・成果の要旨
* 様式河水-8 河川砂防技術研究開発【成果概要】
* 様式河水-9 河川砂防技術研究開発制度　成果レポート
* 別紙河水-II 技術研究開発年次計画・経費の見込み(記入例)
* 別紙河水-III 研究者データ(記入例)
* 別紙河水-IV 成果レポート等作成要領
* 別紙河水-V 様式作成にあたっての留意事項

1. 応募時は別紙河水-I及び様式河水-1～河水-6を、研究成果は様式河水-7～河水-9を記載し、提出して下さい。
2. 次年度以降、継続して応募する場合、原則として本年度提出した様式を加筆・更新して提出してください。ただし、採択されたテーマについては、評価委員会による中間評価（複数年度にわたる場合）を実施します。中間評価の結果、研究目的の達成が困難であると判断されたものについては本制度による技術研究開発を終了します。研究年度（平成〇年度）などの○には適宜数字を記載してください。また、新たな項目や内容について提出頂く場合があります。

３．用紙は、Ａ４版を利用し、左とじにして下さい。

４．応募書類は、日本語で作成して下さい。指定した枚数を超えることや枠をはみだして作成することは認めません。また、文字の大きさについても読みやすい文字の大きさとして下さい。該当する記載内容がない項目には「無し」等と記入して下さい。

５．提出部数は、2部（正1部、写1部）及び電子データ１部(wordデータ等)を提出願います。

６．別紙河水-I「応募書類申請票」は、下線部分について記載して下さい（下線は消去可）。また、研究代表者の氏名の横に、研究代表者の押印をお願いします。提出部数等にもれがないこと、また、別紙河水-V「様式作成にあたっての留意事項」を確認の上、提出して下さい。

別紙河水-I

応募書類申請票

応募書類受理番号（事務局で記載：　　　　　　　　　）

研究テーマ名:

平成　　年　　月　　日

法人名：

代表者名：

所在地：〒000-0000　○○県○○市…

研究代表者：所属

　　　　　　役職名

　　　　　　氏名　　　　　　　　　　　　印

　　　　　　住所　　〒000-0000　○○県○○市…　　（勤務先・自宅）

　　　　　　TEL

　　　　　　FAX

　　　　　　E-Mail

応募書類チェックリスト

□応募書類　１式　（「河川砂防技術研究開発公募実施要領」の表2-1（新規課題）  
または表2-8（一般研究（継続課題、移行課題））を参照）

　　□応募書類の電子データ　１部

　　□法人の概要　１部

　　□研究開発に係る事業部、研究所等の組織、事業内容、研究内容等　１部

-------------------切取線--------------------------事務局割印------------------------

応募書類受理番号（事務局で記載：　　　　　　　　　）

研究テーマ名 :

応募書類受理票

法人名

平成　　年　　月　　日

研究代表者名　　　　　　　　　　　　殿

貴殿から提出された標記応募書類は、受理しました。

　〒100-8918　東京都千代田区霞が関２－１－３

国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室長　　印

様式河水-1

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **河川・水防災技術分野　応募様式（その１）** | | | | |
| 1. 技術研究開発課題 | (31-S)新技術を活用した中小河川の堤防・河道点検又は分析・評価技術の開発  (30-H)非破壊･微破壊手法を用いたコンクリートダム堤体内部の調査技術の開発  (29-K)河床低下状況下の河川における横断構造物の劣化・損傷・破壊予測技術の開発  ※上記いずれか1つの課題名を残し、他を削除してください。 | | | |
| ②技術研究開発テーマ名 | （例）　○○の実用化に関する技術研究開発 | | | |
| ③研究代表者 | 氏名 |  | 職名 |  |
| 専門分野 |  |
| 所属機関  （勤務先） |  | | |
| ④技術研究開発の概要 | **【「ＦＳ研究（新規課題）」の場合記載】**  FS研究の研究計画の妥当性、新規性・将来性、研究実施体制の視点にも着目して記載して下さい。  ※2枚以内とします。  ・研究開発しようとする技術の概要（原理、特性など）  ・当該または関連する技術の現状と活用を目指す上での課題  ・当該技術を研究開発対象とする理由（本研究開発課題に対する有効性など） | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  技術革新性、導入可能性、実現可能性の視点にも着目して記載して下さい。  ※２枚以内とします。  （背景・課題）  ○○技術の現状と課題を記載して下さい。  （目的）  上記で記載した現状と課題に対して、どのような事を目的に技術研究開発するのか明確に記載して下さい。  （技術研究開発内容・成果）  上記で記載した現状と課題に対して、具体的にどのような技術研究開発を実施し、どのような成果を得るのかを明確に記載して下さい。  （研究成果の河川整備・管理への反映）  研究成果がどのように河川整備や管理実務に生かされるのかを明確に記載して下さい。 | | | |

様式河水-2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **河川・水防災技術分野　応募様式（その２）** | | | |
| ⑤技術研究開発計画 | 技術研究開発の目標を達成するために、どのような技術研究開発を行うのか、具体的かつ詳細に記載して下さい。また、様式河水-4「技術研究開発年次計画・経費の見込み」とも研究項目名等の整合を図ると共に、経費の使途についても記載して下さい。  ※最終年は当該年度単年度の達成目標とともに、研究期間全体での達成目標についても総括的に記載してください。  ※3枚以内とします。 | | |
|  | 達成目標 | 実施内容 |
| 1  年  目 |  |  |
| 2  年  目 |  |  |
| 3  年  目 |  |  |

様式河水-3

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **河川・水防災技術分野　応募様式（その３）** | | | |
| ⑥技術研究開発実施体制 | 適正な人員配置による実施体制であることを図示などによりわかりやすく説明してください。  ⑤「技術研究開発計画」や⑦「共同研究者」、様式河水-4「技術研究開発年次計画・経費の見込み」とも研究項目名等の整合を図り記載して下さい。 | | |
| ⑦共同研究者 | 氏　　名 | 所属機関・役職 | 研究分担内容 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

様式河水-4

技術研究開発年次計画・経費の見込み

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式河水-1「②技術研究開発テーマ名」を記載してください

※別紙河水-IIの記入例を参考に記入してください。

単位：千円

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | H○年度 | H○年度 | H○年度 | 経費の総額 |
|  |  |  |  |  |
| 1. 直接費 |  |  |  |  |
| 1. 諸経費（上限（①×30%）） |  |  |  |  |
| 消費税 |  |  |  |  |
| 合　計 |  |  |  |  |
| うち外注費 |  |  |  |  |

注１）研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい。

注２)また、研究年度の欄については様式河水-5の金額と整合をとるよう注意して下さい。

注３)①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

注４)各年の合計額が、研究費用負担限度額（ＦＳ研究500万円、一般研究最長2年で3,000万円（年間1,500万円まで））を超えていないことを確認して下さい。

様式河水-5

研究年度（平成○年度）の必要経費概算

研究に必要な経費の概算額を｢委託研究処理科目区分表｣に定める科目区分に従って、記載して下さい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　　　目 | 金額（千円） | 積　算　内　訳 |
| ①人件費 |  |  |
| ②諸謝金 |  |  |
| ③旅費交通費 |  |  |
| ④庁　　　費   1. 備品費 2. 借料及び損料 3. 印刷製本費 4. 賃金 5. 会議費 6. 外注費 7. その他 |  |  |
| ⑤直　接　費  （①＋②＋③＋④） |  |  |
| ⑥諸　経　費  （上限（⑤×30%）） |  |  |
| ⑦小　　　計  （⑤＋⑥） |  |  |
| ⑧消費税相当額  （⑦×0.08） |  |  |
| 合　　　　計  （⑦＋⑧） |  |  |

※１　本様式は、研究年度（応募書類申請時の翌年度）の必要経費のみについて作成して下さい。

※２　⑦小計では、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

※３　消費税相当額については、契約日時点での消費税率に従うものとします。

※４　採択された課題については、必要経費について詳細な内訳を提出していただきます。

委託研究処理科目区分表

|  |  |
| --- | --- |
| 科目区分 | 内　訳 |
| 直接費 | 委託研究に直接必要な人件費、諸謝金、旅費交通費、庁費である。 |
| 人件費 | 委託研究に直接従事する技術者（大学の招聘研究者、公益法人の職員又は民間会社の社員）及び所属機関の研究を支援するための職員等の人件費を積み上げ計上する。  　ただし、国または地方公共団体からの交付金等で職員の人件費を負担している法人（国立大学法人、独立行政法人等）の職員は計上できない。 |
| 諸謝金 | 委託研究に直接協力する者に対する報酬若しくは謝金で、時間数、人数及び回数を計上する。 |
| 旅費交通費 | 委託研究に直接従事する技術者および直接協力する者の調査並びに会議等の出席に要する費用で、旅行先を記し、人数及び回数を計上する。 |
| 庁費 | 委託研究に必要な次の（1）～（7）の項目について計上する。 |
| （1）備品費 | １点５０，０００円以上かつ長期の反復使用に耐える物品を、品目毎に積み上げ計上する。  　ただし、携帯電話、スマートフォン、タブレット及びデジタルカメラについては、上記に係わらず備品費として積み上げ計上する。  ※備品は、原則、本委託研究終了後に委託者（国土技術政策総合研究所）へ返還することになります。 |
| （2）借料及び損料 | 借り上げ機器等毎に、使用数量及び使用日時数に応じて積み上げ計上する。 |
| （3）印刷製本費 | 成果品となる報告書および資料等毎に積み上げ計上する。 |
| （4）賃金 | 委託研究に直接従事する非常勤職員（アルバイト等）の雇用に要する費用について積み上げ計上する。 |
| （5）会議費 | 会場借り上げ等の費用について、使用回数、使用時間に応じて積み上げ計上する。 |
| （6）外注費 | 調査、試験、実験、計算、製作、その他役務等を専門業者に再委託する場合は、委託項目毎に一式計上する。ただし、一式の内訳書(専門業者の見積書等)を添付すること。  本制度においては、内部再委託は認められない。内部において必要となる人件費は、契約における研究従事者として登録して計上すること。 |
| （7）その他 | 上記に該当しない経費で、費目毎に積み上げ計上する。(消耗品費等) |
| 諸経費 | 委託研究処理に必要な経費のうち直接費以外の諸経費について計上する。諸経費は、直接費×諸経費率(30%)を上限とする。ただし、研究者の所属する機関において規定等がある場合は、30%を上限に研究者の所属する機関において定められた方法により計上することができる。 |

様式河水-6

研　究　者　デ　ー　タ

※別紙河水-IIIを参考に記入して下さい。

※研究に参加する人数分の様式（様式河水-6）を作成下さい。

１．氏名・生年月日

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな  氏　　　名 | 生年月日（西暦） |
|  | 年　　月　　日 |

２．（所属機関がある場合）所属機関名・部署名・職名・連絡先

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属機関名  （勤務先） |  | 部署名 |  |
| 職　　名 |  |
| 連絡先 | （〒　　　－　　　　） | | TEL： |
| FAX： |
| E-mail： |

３．最終学歴

|  |
| --- |
|  |

４．研究歴（主な職歴と研究内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　月 | 職　歴 | 研究内容 |
|  |  |  |

様式河水-6

５．受賞歴、表彰歴

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 受賞名・内容 |
|  |  |

６．研究成果等

　・主な研究論文及び著書

|  |  |
| --- | --- |
| 1) |  |
| ・特許等取得件数：　　　　　件  特許件名  ・研究成果： | |

７．他の競争的資金制度、補助金等からの助成の有無

（財団法人の研究助成事業等、国以外が行っている助成制度も含む。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究制度名 | 研究開発課題名 | 研究資金の額  （単位：百万円） | 研究期間 |
|  |  |  |  |

８．研究活動における不正行為への対応状況確認

①　国土交通省の策定した「研究活動の不正行為への対応指針（平成２７年６月２日改正）」の第４章の１.研究活動における不正行為の未然防止及び２.研究機関における規程・体制の整備及び公表について、以下の該当する全ての項目にチェックしてください。（規程等は、契約締結時又は採択決定時に提出いただきます。）

□所属する研究機関は、不正行為を未然に防止する観点から、コンプライアンス（法令遵守）に関する規範において、研究活動における不正行為を行わない旨の研究倫理に関する規程を定めている。

□所属する研究機関は、研究倫理教育等研究活動における不正行為の未然防止のための組織的な取組を実施している。

□所属する研究機関は、研究活動における不正行為の疑惑が生じたときの調査手続きや方法等に関する規程や仕組み・体制等を適切に整備し、その状況について内外に公表している。

□所属する研究機関は、上記項目のいずれも実施していない。

　（理由を記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②□申請者は、研究資金（他府省の競争的資金等含む）で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、研究年度に「その交付の対象としないこと」とされていません。  
（上記に該当する場合は、□にチェックしてください。）

申請者氏名

様式河水-7

研究概要・成果の要旨

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：  技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

【研究概要】（200文字程度。この部分の記述は、ＦＳ研究（新規課題）の場合は移行評価、一般研究の場合は中間評価・事後評価を公表する際に、評価コメントと併せてホームページで公開します。）〔１行４０文字です。５行程度を目安に記載してください。〕

【成果の要旨】

* 本資料は、一ページで作成してください。また、移行・中間・事後評価の重要な判断材料となりますので、ポイントを整理し箇条書きなどにより簡潔な表現とし、必要に応じてポンチ絵や図表などを用いて記述して下さい。

様式河水-8

**河川砂防技術研究開発【成果概要】**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **①研究代表者** | | | **氏　名**（ふりがな） | | | **所　属** | | | **役　職** |
|  | | |  | | |  |
| **②技術研究**  **開発テーマ** | 名称 | |  | | | | | | |
| **③研究経費**（単位：万円）  ※端数切り捨て。 | | | 平成 年度 | | 平成 年度 | | 平成 年度 | 総 合 計 | |
| 万円 | | 万円 | | 万円 | 万円 | |
| **④研究者氏名** | | （研究代表者以外の研究者の氏名、所属・役職を記入下さい。なお、記入欄が足りない場合は適宜追加下さい。） | | | | | | | |
| 氏 名 | | | | 所属機関・役職（※平成　年3月31日現在） | | | | | |
|  | | | |  | | | | | |
|  | | | |  | | | | | |
|  | | | |  | | | | | |
| **⑤研究の目的・目標**（様式河水-1、河水-2に記載した研究の目的・目標を簡潔に記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **⑥研究成果**  （具体的にかつ明確に記入下さい。4ページ程度。） | | | | | | | | | |
| **【「ＦＳ研究（新規課題）」の場合記載】**  **⑦一般研究にむけた実施計画**  （一般研究へ移行した場合の今後の研究開発の実施計画を具体的かつ明確に記入下さい。2ページ程度。） | | | | | | | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  **【「ＦＳ研究（新規課題）」の場合記載】【非公表】**  **⑧研究成果の発表状況・予定**  （本研究の成果について、論文や学会への投稿等又はその予定があれば記入して下さい。）（以下記入例）  ・これまでに発表した代表的な論文  ・著書（教科書、学会妙録、講演要旨は除く）  ・国際会議、学会等における発表状況  ・主要雑誌・新聞等への成果発表  ・学術誌へ投稿中の論文（掲載が決定しているものに限る）  ・研究開発成果としての事業化、製品化などの普及状況  ・企業とのタイアップ状況  ・特許など、知的財産権の取得状況  ・技術研究開発成果による受賞、表彰等 | | | | | | | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  **⑨研究成果の社会への情報発信**  （ウェブ、マスメディア、公開イベント等による研究成果の情報発信について記入下さい。ウェブについてはURL、新聞掲載は新聞名、掲載日等、公開イベントは実施日、テーマ、参加者数等を記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  **⑩表彰、受賞歴**  （単なる成果発表は⑧⑨に記載して下さい。大臣賞、学会等の技術開発賞、優秀賞等を記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  **⑪研究の今後の課題・展望等**  （研究目的の進捗状況・達成状況や得られた研究成果を踏まえ、研究の更なる発展や河川政策の質の向上への貢献等に向けた、研究の今後の課題・展望等を具体的に記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  **⑫研究成果の河川砂防行政への反映**  （本研究で得られた研究成果の実務への反映等、河川政策の質の向上への貢献について具体的かつ明確に記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **【「ＦＳ研究（新規課題）」、「一般研究」の場合記載】**  **⑬特許など知的財産権の取得状況・予定【非公表】**  （研究に関連する特許等の取得又は予定、あるいは公表を控えるべき研究成果（公開前の特許等）があれば記入してください。） | | | | | | | | | |
| **【「一般研究」の場合記載】**  **⑭一般研究への移行評価あるいは、中間評価で指摘を受けた事項への対応状況【非公表】**  ・１年目終了時の指摘事項と対応状況  ・２年目終了時の指摘事項と対応状況 | | | | | | | | | |
| **【「ＦＳ研究（新規課題）」の場合記載】**  **⑮自己評価【非公表】**  ※本自己評価は評価の重要な判断材料となりますので、その理由を含めてわかりやすく記入して下さい。  **Ⅰ．ＦＳ研究の計画達成度について**  ・ＦＳ研究として立てた目標を達成できたか。  ・研究計画が適切に実行されているか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．一般研究に移行した場合の見通しについて**  ・一般研究に移行して研究開発を継続した場合、実際に導入、活用可能な成果を得ることが期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に） | | | | | | | | | |
| **【「一般研究（移行課題）」あるいは「一般研究（新規・継続課題）中間評価」の場合記載】**  **⑯自己評価【非公表】**  ※本自己評価は、報告書とともに、評価の重要な判断材料となりますので、その理由を含めてわかりやすく記入して下さい。  【一般研究1年目】  **Ⅰ．技術研究開発の進捗状況**  ・研究開発の目的、目標を計画通り達成するため、研究開発が適切に進捗しているか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．技術研究成果の見通し**  ・計画通りの研究成果が期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅲ．技術研究成果の導入、活用可能性**  ・研究成果を河川行政へ導入、活用することが可能であるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  【一般研究２年目】  **Ⅰ．技術研究開発の進捗状況**  ・研究開発の目的、目標を計画通り達成するため、研究開発が適切に進捗しているか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．技術研究成果の見通し**  ・計画通りの研究成果が期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅲ．技術研究成果の導入、活用可能性**  ・研究成果を河川行政へ導入、活用することが可能であるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **【「一般研究（継続課題）事後評価」の場合記載】**  **⑰自己評価【非公表】**  ※本自己評価は、評価の重要な判断材料となりますので、その理由を含めてわかりやすく記入して下さい。  **Ⅰ．目標達成度について**  ・当初の目標を達成することができたか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．技術研究開発計画について**  ・技術研究開発計画、経費、技術研究開発体制等の計画が適切であったか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅲ．技術研究開発成果について**  **(1) 技術革新性**  ・学術的研究及び特許等に係る技術の応用・改良等をもって、既存の技術に比べて相当程度の技術革新を推進することができたか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **(2) 導入可能性**  ・技術研究開発の成果が幅広く普及することにより、河川行政のみならず、国民生活、経済活動への波及効果が期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に） | | | | | | | | | |
| **【「ＦＳ研究（新規課題）」、「一般研究」の場合記載】**  **⑱本制度に対する意見等【非公表】**  （本制度に対する意見、要望や研究遂行上に生じた問題点及びその解決方法等について記入下さい。） | | | | | | | | | |

【様式河水-9】

**河川砂防技術研究開発制度**

**成果レポート**

**研究テーマ**

**○○○○○○○○○○○○○○○○○○**

**○○○○○○○○○○○○○○○○○○**

**研究代表者： ○○○○大学教授　　○○　○○**

**共同研究者： △△△△大学教授　　△△　△△**

**□□□□大学教授　　□□　□□**

**平成○○年３月**

**国土技術政策総合研究所**

※本成果レポートの作成にあたっては、別紙河水-IV成果レポート等作成要領に従ってください。

※ＦＳ研究（新規課題）：レポート枚数は３０ページ程度を目安としてください。

※継続課題（最終年度）：レポート枚数は５０ページ程度（2カ年は３０ページ程度）を目安としてください。

目次　＜原稿作成例＞

研究概要・成果の要旨（様式河水-7を挿入）

第１章　はじめに 1

１．１　ページ 1

１．２　見出し XX

１．３　数式および数学記号 XX

１．４　図表 XX

１．５　参考文献の引用とリスト XX

第２章　国内・海外の既存研究状況 XX

２．１　○○○○○○○○ XX

２．２　○○○○○○○○ XX

第３章　○○に関する挙動調査実験 XX

３．１　○○○○○○○○ XX

３．２　○○○○○○○○ XX

第４章　実験結果から得られた所見 XX

４．１　○○○○○○○○ XX

４．２　○○○○○○○○ XX

第５章　まとめ（今後の河川政策への提案など） XX

５．１　○○○○○○○○ XX

５．２　○○○○○○○○ XX

参照 XX

付録　実験全データなど XX

**第１章　はじめに**

1.1　ページ

(1) 本文部分のレイアウトとフォント

　本文は2段組で，上辺19 mm，下辺24 mm，左右のマージンは 20 mm ずつ，段と段との間のスペースは約 6 mm とします．

　本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい．

(2) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページをつけて下さい．

(3) 脚注および注

　脚注や注はできるだけ避けて下さい．本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい．

1.2　見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは**章**，**節**，**項**の3段階までとします．**章**の見出しはゴシック体とし，**第○章**に続けて書きます．また，見出しの上下にスペースを空けます．

(2) 節の見出し

　節の見出しもゴシック体で，**○.○**などの括弧付き数字を付けます．また，見出しの上下にスペースを空けます．このファイルのサンプルから分かるように，上を2行，下を1行程度空けて下さい．ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい．

(3) 項の見出し

　項の見出しは，**a)**など、括弧付きアルファベットを付け，上下には特にスペースを空けません．項より下位の見出しは用いないで下さい．

1.3　数式および数学記号

　数式や数学記号は次の式 (1a)

 (1a)

 (1b)

のように本文と独立している場合でも， のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します．数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません．

　数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにします．

1.4　図表

(1) 図表の位置

　図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします．原稿末尾にまとめたりしてはいけません．また，図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい．図表の横幅は，「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします．図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい．図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にします．

(2) 図表中の文字およびキャプション

　図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい．特にキャプションの大きさ (9pt)より小さくならないようにして下さい．

　長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します．

1.5　参考文献の引用とリスト

　参考文献は出現順に番号を振り，その引用箇所でこのように1)上付き右括弧付き数字で指示します．参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し，脚注にはしないで下さい．

表-1 表のキャプションは表の上に置く．このように長いときはインデントして折り返す．

|  |
| --- |
| 資料番号　　　 高さ *h* (m) 　　　幅 *w*(m) |
| 1　　　　　1.45　　　　　 0.25  2　　　　　1.75　　　　　 0.40  3　　　　　1.90　　　　　 0.65 |

ケース2

ケース１

図-2 図のキャプションは図の下に置く

参考文献

1) 本間　仁，安芸皓一：物部水理学，pp. 430-463，岩波書店，1962.

2) 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」，2010.

3) Shepard, F. P. and Inman, D. L. : Nearshore water circulation related to bottom topogrphy and wave refraction, *Trans*. *AGU*., Vol. 31, No. 2, 1950.

4) C. R. ワイリー（富久泰明訳）: 工学数学（上）, pp. 123-140,   
ブレイン図書, 1973.

5) Smith, W., et al. : Cellular phone positioning and travel times estimates, Proc. of 8th ITS World Congress, CD-ROM, 2000.

(土木学会論文集の完成版下印刷用和文原稿作成例を

基本に作成）

別紙河水-II

技術研究開発年次計画・経費の見込み(記入例)

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式河水-1「②技術研究開発テーマ名」を記載してください

【「ＦＳ研究（新規課題）」「一般研究（移行課題）」の場合記載】

* ＦＳ研究の後、一般研究を２年間実施する場合の例（研究項目１-１、２-１を外注する場合）

単位：千円

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | H31年度 | H32年度 | H33年度 | 経費の総額 |
| （１）・・・に関する技術研究開発  （１-１）・・・の測定  （２）・・・に関する技術研究開発  （2-1）・・・の解析 | 【ＦＳ研究】  ・・・の開発  1,500  ・・・データ整備  660 | 【一般研究】  （1年目）  ・・・の開発  6,000  ・・・の検討  1,200 | 【一般研究】  （2年目）  ・・・の検証  5,200   * ・・の検討   2,000 | 7,500  5,200  660  3,200 |
| ①直接費 | 2,160 | 7,200 | 7,200 | 16,560 |
| ②諸経費（上限（①×30%）） | 618 | 2,060 | 2,060 | 4,738 |
| 消費税 | 222 | 740 | 740 | 1,702 |
| 合　計 | 3,000 | 10,000 | 10,000 | 23,000 |
| うち外注費 | （0） | （1-1）・・の測定（2,500）  （2-1）作業補助  （500） | （0） | （3,500） |

注１)研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい（上記例の研究項目（1-1）、（2-1）を参照し、研究項目（１）及び（２）の計画額のうち、外注額を下欄括弧内に記入して下さい。）

注２)また、研究年度の欄については様式河水-5の金額と整合をとるよう注意して下さい。

注３）①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

注４)経費の総額が、応募分野の研究費用負担限度額（ＦＳ研究300万円、一般研究最長2年で2,000万円）を超えていないことを確認して下さい。

別紙河水-II

技術研究開発年次計画・経費の見込み(記入例)

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式河水-1「②技術研究開発テーマ名」を記載してください

【「継続課題」の場合記載】

* 技術研究開発期間がH31年度から３年間の場合の例（研究項目１-１、２-１を外注する場合）

単位：千円

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | H31年度 | H32年度 | H33年度 | 経費の総額 |
| （１）・・・に関する技術研究開発  （１-１）・・・の測定  （２）・・・に関する技術研究開発  （2-1）・・・の解析 | ・・・の開発  6,000  ・・・データ整備  1,200 | ・・・の検証  1,200   * ・・の検討   6,000 | ・・・の開発  2,000   * ・・の開発   5,200 | 6,000  1,200  2,000  1,200  6,000  5,200 |
| 1. 直接費 | 7,200 | 7,200 | 7,200 | 21,600 |
| 1. 諸経費（上限（①×30%）） | 2,060 | 2,060 | 2,060 | 6,180 |
| 消費税 | 740 | 740 | 740 | 2,220 |
| 合　計 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 30,000 |
| うち外注費 | （1-1）・・の測定（2,500）  （2-1）・・の解析  （500） | （0） | （0） | （3,000） |

注１）研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい（上記例の研究項目（1-1）、（2-1）を参照し、研究項目（１）及び（２）の計画額のうち、外注額を下欄括弧内に記入して下さい。）

注２)また、研究年度の欄については様式河水-5の金額と整合をとるよう注意して下さい。

注３）①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、適宜、諸経費で調整を行って下さい。

注４)経費の総額が、応募分野の研究費用負担限度額を超えていないことを確認して下さい。

別紙河水-III

研　究　者　デ　ー　タ（ 記 入 例 ）

※研究に参加する人数分の様式（様式河水-6）を作成下さい。

１．氏名・生年月日

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな  氏　　　名 | 生年月日（西暦） |
| こくど　たろう  国土　太郎 | １９○○年○月○○日 |

２．（所属機関がある場合）所属機関名・部署名・職名・連絡先

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属機関名  （勤務先） | ○○大学 | 部署名 | 工学部　建設工学科 |
| 職　　名 | 准教授 |
| 連絡先 | （〒○○○－○○○○）  東京都港区○○５－３－２ | | TEL：０３-○○○○-○○○○ |
| FAX：０３-○○○○-１２３４ |
| E-mail：t.kokudo@oo.ｊｐ |

３．最終学歴

|  |
| --- |
| ○○○大学大学院　○○研究科博士前期課程○○工学専攻修了（修士）  ○○大学　○○学部○○工学科卒業（学士） |

４．研究歴（主な職歴と研究内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　月 | 職　歴 | 研究内容 |
| ２００○．４  ２０○○．８ | ○○大学助手  ○○大学准教授 | ○○河川における○○の特性に関する研究  ○○○○検証研究 |

５．受賞歴、表彰歴

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 受賞名・内容 |
| ２０○○．８ | ○○学会「○○技術研究賞」 |

６．研究成果等

　・主な研究論文及び著書

|  |  |
| --- | --- |
| 1) | ○○河川における○○の特性に関する研究報告（19○○～20○○年）○○学会○○論文報告集 |
| ・特許等取得件数：　０　　件  特許件名  ・研究成果：研究報告「○○に関する調査報告、○○県」２０○○年５月 | |

７．他の競争的資金制度、補助金等からの助成の有無

（財団法人の研究助成事業等、国以外が行っている助成制度も含む。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究制度名 | 研究開発課題名 | 研究資金の額  （単位：百万円） | 研究期間 |
| ○○制度  （△△省） | ○○に関する研究開発 | △△ | Ｈ○○～Ｈ○○ |

８．研究活動における不正行為への対応状況確認

①　国土交通省の策定した「研究活動の不正行為への対応指針（平成２７年６月２日改正）」の第４章の１.研究活動における不正行為の未然防止及び２.研究機関における規程・体制の整備及び公表について、以下の該当する全ての項目にチェックしてください。（規程等は、契約締結時又は採択決定時に提出いただきます。）

□所属する研究機関は、不正行為を未然に防止する観点から、コンプライアンス（法令遵守）に関する規範において、研究活動における不正行為を行わない旨の研究倫理に関する規程を定めている。

□所属する研究機関は、研究倫理教育等研究活動における不正行為の未然防止のための組織的な取組を実施している。

□所属する研究機関は、研究活動における不正行為の疑惑が生じたときの調査手続きや方法等に関する規程や仕組み・体制等を適切に整備し、その状況について内外に公表している。

□所属する研究機関は、上記項目のいずれも実施していない。

　（理由を記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②□申請者は、研究資金（他府省の競争的資金等含む）で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、研究年度に「その交付の対象としないこと」とされていません。  
（上記に該当する場合は、□にチェックしてください。）

申請者氏名　国土　太郎

別紙河水-IV

成果レポート等作成要領

１．目的

本公募において採択されたテーマ（以下、「研究課題」という。）は、国土技術政策総合研究所との契約手続きを経て、実施することとしています。契約期間の工期末に納品される成果物に関して、必要な事項を定めることにより、研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の河川・水防災等の政策への反映見込み等を明らかにすることを目的とします。

２．提出書類の様式等

各研究課題の研究代表者は、以下の提出書類を作成下さい。提出部数は印刷物２部、電子データ１式（CD-R等）を基本とします。但し、契約時に国土技術政策総合研究所の指示に従って下さい。

書類作成にあたって、文字サイズ・フォント等の指定が様式に無い場合は、見やすい文字サイズ（10P以上）、フォント（MSゴシック、MS明朝等）等で該当欄のスペースに収まるように記入し、用紙の追加は必要な場合を除き避けて下さい（「報告書」の頁数は制限なし。）。電子媒体（CD-R等）を提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出して下さい。また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）して下さい。

なお、様式河水-9は公表予定となっています。

**【「ＦＳ研究（新規課題）」の場合】**

●「成果レポート」

　研究期間中に実施した研究内容について様式河水-9を用い３０頁程度を目安として研究レポートを作成して下さい。

　構成方針については、年度当初の打合せ時に、国土技術政策総合研究所の担当部局と入念に調整して下さい。

**【「一般研究」の場合】**

●「報告書」

研究成果について研究目的から技術研究開発に至る結果を簡潔にとりまとめて作成し、文字及び図表は分かりやすく仕上げ、特に図表については当該位置づけを明確にして下さい。Ａ４判で製本して下さい。

●「成果レポート」（最終年のみ）【様式河水-9】

　これまでに提出された委託研究成果品（報告書等）を基に研究期間中に実施した研究内容について様式河水-9を用い50頁程度（研究期間が３カ年以上の場合、2カ年の場合は30頁程度）までの総括研究レポートを作成して下さい。なお、作成するために必要なレイアウトやフォント等に関する基本的な情報は様式河水-9の中で記述しています。

　構成方針については、遅くとも最終年の年度当初の打合せ時に、国土技術政策総合研究所の担当部局と入念に調整して下さい。

上記成果品に係る著作権は、プログラム等の著作権を除き全て国土交通省国土技術政策総合研究所に帰属します。これらの原稿（電子形式）については、国土交通省のホームページ上にて公表します。

なお、研究課題の研究代表者等自らが、公表用資料及び成果レポートの全文または一部を複製・翻訳・翻案などの形で利用する場合には、その利用を妨げるものでありません。

ただし、研究課題の研究代表者等が研究成果を公表する場合には、事前に国土交通省国土技術政策総合研究所と協議して下さい。また、公表に当たっては、その内容が本公募で採択された委託研究の成果であることを明示して下さい。

（報告書　表紙及び背表紙の例）

平成○○年度

○○○○を用いた○○○○○○に関する○○開発

報告書

平成○○年三月

国立大学法人　　○○大学

平成○○年度　○○○○を用いた○○○○○○に関する○○開発　報告書　　　平成○○年三月　　国立大学法人　　○○大学

別紙河水-V

様式作成にあたっての留意事項

記入にあたって留意頂きたい点、ミスの多い箇所を中心に以下に記載しています。提出前にご確認いただきますよう宜しくお願いいたします。

応募時の提出書類

|  |
| --- |
| 【全体に関すること】   * 規定の枚数に整合しているか。 * ○や△に適宜、数字や文字が記載されているか。   【様式河水-1　河川・水防災技術分野　応募様式（その１）】   * 「②技術研究開発テーマ名」は、「別紙河水-I応募書類申請票」と同一になっているか。 * 継続課題の場合は、前年度と同一のテーマ名になっているか。   【様式河水-3　河川・水防災技術分野　応募様式（その３）】   * 「⑦共同研究者」の欄に、研究代表者の氏名は不要です。   【様式河水-4　技術研究開発年次計画・経費の見込み】   * 経費の計算ミス、単位間違い、「.」と「,」の使い方に間違いはないか。 * 継続課題の場合でも、初年度からの全期間の経費を記載しているか。   【様式河水-5　研究年度（平成〇年度）の必要経費概算】   * 経費の計算ミス、単位間違い、「.」と「,」の使い方に間違いはないか。 * 研究年度（平成〇年度）の○に数字が記載されているか   【様式河水-6　研究者データ（共同研究者全員分）】   * 「８．研究活動における不正行為への対応状況確認　①」にチェックがあるか。 * 「８．研究活動における不正行為への対応状況確認　②」にチェックがあるか。また、申請者氏名は適切か。（研究代表者ではなく、当該研究者の氏名を記載） |

中間評価・事後評価時の提出書類

|  |
| --- |
| 【様式河水-7　研究概要・成果の要旨】   * 研究概要は、２００文字を目安に記載されているか。   【様式河水-8　成果概要】   * 「③研究経費」の計算ミス、単位間違いはないか。 * 「④研究者氏名」の欄に、研究代表者の氏名等は不要です。 |